教材 No.15 しずかに自習できるかな？

<対象> 小学校低学年～中学年

<関連する教科等>

- ・ 道徳：善悪の判断 / 親切、思いやり / 規則の尊重
- ・ 特別活動 学級活動 学級や学校における生活上の諸問題の解決 など

<教材制作の意図>

小学校低学年くらいは、大人の視点や意見をそっくりそのまま自分の中に取り入れていく時期だと言われることがある。そうした指摘のとおり、この時期の子どもたちが、「先生や親などから示されるルールや決まりは絶対的なことだ」と理解している様子を目にすることもあるだろう。なお、その後は自分なりにルールなどについて考えられる段階へ移行していくとされている。他者の視点を取り入れる段階から、自分なりに考えられる段階へというプロセスを経ながら、子どもたちは成長し、道徳観を深めていくものなのだろう。

※1

ところが、こうした時期において、大人の視点に影響を受けた強い正義感によりルールを守れない人を過剰に攻撃するタイプのいじめが発生することがあるという指摘もある^{※2}。大人の話をよく聞くことや、ルールを守ること、正義感にもとづいて行動することなどは、基本的には望ましいことである、しかし、それがいきすぎて誰かを不当なレベルで攻撃してしまっている問題は問題である。大人の視点を取り入れることが成長プロセスの1つだとしても、そこでいじめが起こってしまうようなら、何かしらの対応が必要になるだろう。また、ルールを守ろうとする側が多数であった場合に、ルールを守れなかった少数のものを集団で責める構図となりがちになってしまう問題についても取り上げる余地がある。

本教材では、「しずかに自習をしよう」という先生の言うことをしっかりと守ろうとするミオたちクラスメイトが、おふざけをしまっているシンタロウを強く注意する様子が描かれている。先生の言うことを守ることは大事かもしれないが、ミオたちにはもっと違った伝え方もあったのではないだろうか。この時間の出来事について子どもたちは何を感じるだろうか。クラスで話し合ってみてほしい。

※1 成長や発達のプロセスは多様であることを前提にしながら、ここでは1つの見方を提示している。

※2 荻上千キ (2018)『いじめを生む教室』PHP 研究所 など。

<話し合いのポイント>

子どもたちの意見について、共感的に聞いたり、発言の意図をていねいに確認したり、それぞれの考えの違いについてつっこんだりしてしてほしいです。

その際、次のような点についておさえておくと、やりとりが深まると思われます。

- ・ 「しずかに自習をしよう」という先生の言うことを守れなかったシンタロウは、強く責められても仕方ないのだろうか。
- ・ ミオは、どんな思いからシンタロウに注意をしたのだろうか。

- ミオたちは、かなり強くシンタロウを責めているようにも見える。なぜそれほどまでに強く責めたのだろうか。
- 最初に注意をしたのはミオだけであったが、何人もそれに続いていった。その人たちは、なぜ続いて注意をしていったのだろうか。
- 日直としてちゃんと注意をしたはずのミオは、なぜ最後に気まずい思いをしているのだろうか。
- 先生の言うこと（あるいは様々なルールなど）を守ることは、なぜ大事なのだろうか。

<授業プラン> (40~50分)

活動内容	補足・留意点等
<p>■導入</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今回学習するテーマについて想像をふくらませる。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ クラスにはどんなルールがあるだろう。ルールを守れないこともあるかな。間違っただけをした人になんて伝えるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> • 話し合いの時間を確保するために、導入の話に時間をかけすぎず、早めに教材の視聴に入れるとよい。
<p>■マンガ教材の視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教材「しずかに自習できるかな？」を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 視聴後、小グループで感想を話し合う。何名かに発表をしてもらう。 ➢ 内容が伝わりづらかったようであれば、ミオさんやシンタロウさんがどんなことに困っているかていねいに確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 感想をざっくばらんに話し合ったり発表したりすることで、意見を言いやすい雰囲気をつくりたい。
<p>■マンガ教材の問題点について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> • ストーリーを追いながら、登場人物の気持ちを想像する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「しずかに自習できるかな」と聞かれたとき、ミオさんはどのような気持ちだっただろうか？ ➢ ミオさんは、どのような思いからシンタロウさんを注意したのだろうか。（責任感や正義感か、先生に褒められたいからか、等） ➢ シンタロウさんは、注意をされてどのような気持ちになっただろうか。 ➢ ミオさんといっしょに注意をしたクラスメイトたちは、どのような思いで注意したのだろうか。 • 最後の場面のミオさんの心の声や表情に注目しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ どのような様子だろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業スタイルによって、様々な話し合いの仕方を採用して構わない。ペアで話してから全体で共有する、まずはノートに書かせる、思考ツールを活用する、等。 • できるだけ、一人一人がたくさん話することができ、たくさん意見を聞き合えるとよい。問題に対して、様々な見方・考え方があることが知れるとよい。 • 低学年で実施する際には、伝わりやすい言葉にすることを検討する。

<ul style="list-style-type: none"> ➤ ミオさんは先生の言うことを守ろうと注意をしたのだから、よいことをしたのではないか。違うとすれば、それはなぜだろうか。 ・ 何が問題だったのだろうか？ ➤ なぜちゃんと注意をしたのに、すっきりしない結末になってしまったのだろうか？ ➤ このお話では、困った思いをしている人が何人もいます。みんながよい気持ちで自習するためには、どうしたらよかったですでしょうか。 	
<p>■自分やクラスの問題として考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここまでマンガの問題について考えてきました。もしかしたら、こうした問題が現実に自分やクラスの中で起こってしまうことがあるかもしれません。みんなで楽しい気持ちで遊ぶために、自分やクラスでできること・気をつけたいことはあるでしょうか？（起こってしまったときに、何ができるでしょうか） ➤ 正しいと思うことを言うときでも言い方には気をつけなければいけない、正しいことをしても誰かが傷つくことがある、みんなで責めるのはよくない、自習のルールを自分たちで決める、先生にほめられなくても自分で自分をほめる、等。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記「話し合いのポイント」を参考に、話し合いの方向性を想定しつつ、自由に話を広げていけるとよい。 ・ 多様な意見を歓迎するが、いじめに類する行為を肯定するような意見（いじめられる方が悪い、いじめられても仕方ない等）に対しては、思いを受け止めつつ、その行為の問題性について適切に理解をしてもらおうよう留意する。（「傷つく人が少しでもいなくなるように、何ができるか知恵を出し合いたい」という思いを伝えていきたい） ・ 自分のこととして考えたり、自分たちクラスのこととして考えたり、発想を広げていけるとよい。
<p>■ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の授業のふりかえりをする。 ➤ これからの学校生活や、友達とのコミュニケーションに今日学んだことを活かしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートに書く、何名かには発表をさせる、等。考えたり話し合ったりしたいことを言葉でいねいにまとめられるとよい。

（参考）ウェブサイト記載「授業を行う先生へ」

- ・ 本教材シリーズでは、善悪がはっきりしない状況や、つい見落とされがちな問題を積極的に取り上げ、リアリティのある物語として描いています。本教材をとおして、一人一人がいじめゲームのルールを変えるチェンジャーズとなってほしいという願いのもと制作をいたしました。
- ・ 教材を見れば、子どもたちからは何か言いたいことが出てくるはずで。子どもたちによる話し合いを中心に授業を進めてください。話し合いの時間をできるだけ多くとれるように、短めの尺の中で問題点を具体的に描いています。すぐに答えが出ないような難問についてねばりよく話し合いながら、他者への想像力を養ってほしいです。
- ・ 授業中は、子どもの話を丁寧に聞いたり、もやもやに共感したりする時間を大切にしてほしいです。「こうすべき」という結論を急がず、本音が出されることや、多様な意見が出されること、少数派の意見を丁寧に聞くことなどを大事にしてほしいです。

- ・ オープンエンドで終わることを想定していますが、「本時では多様な考えが出されてよかった」というだけではなく、「これから自分（たち）には何ができるだろうか」と今後の生活につながるような終末を目指したいと考えています。授業時間内に1つの結論を出す必要はなく、これからチェンジャーズになるためのきっかけを掴んでもらいたいと思っています。
- ・ モデル指導案を掲載しておりますが、クラスや子どもたちの実態に合わせ話し合いが深まるよう、自由に柔軟に授業を展開してください。1つの教材の中に、複数の問題が描かれており、主人公以外の視点から議論をすることが可能な教材もあります。道徳科、特別活動、総合的な学習の時間など、様々な教科等でご活用いただければ幸いです。